

# 福知山市立学校教育内容充実推進プラン（令和3年度～令和7年度）

## 『響』プラン・F

### による福知山ならではの新しい教育が始まります…

福知山市では、平成23年から10年間にわたって「市立学校教育改革推進プログラム」によって本市の教育「シームレス学園構想（保幼小中一貫・連携教育）」の実現にむけ「教育内容の充実」と「学校の適正規模・適正配置」に取り組んで参りました。

その結果、「複式学級の解消」「学校の適正規模・適正配置」については、大きく前進し、このプログラムの環境整備、基盤整備（ハード面）としての役割は、ほぼ終えることができました。しかし、「教育内容の充実」については、まだまだ、さまざまな教育課題があり、これからの本市の教育を考え、方向を示すためには、教育内容（ソフト面）を中心とした新たな計画が必要となります。

そこで変化の激しい時代に対応する「福知山市立学校教育内容充実推進プラン『響』プラン・F」として新たな5年計画を策定し、教育内容のさらなる充実に取り組んでいくことになりました。

本プランでは、これからの時代をたくましく生きる人材を育成するためには、一人一人の子どもが「自分のよさ」を見付け、それを自らの可能性として自覚し、その特性を伸ばす環境の中で「知」「徳」「体」をバランスよく育み、自ら学び考え行動できる力を培わなくてはならないと考えています。

ふるさと福知山を愛する「郷土愛」に包まれ、不易の価値である「人権尊重」を基盤として「時代の要請」に応える福知山ならではの新しい教育を推進していきます。

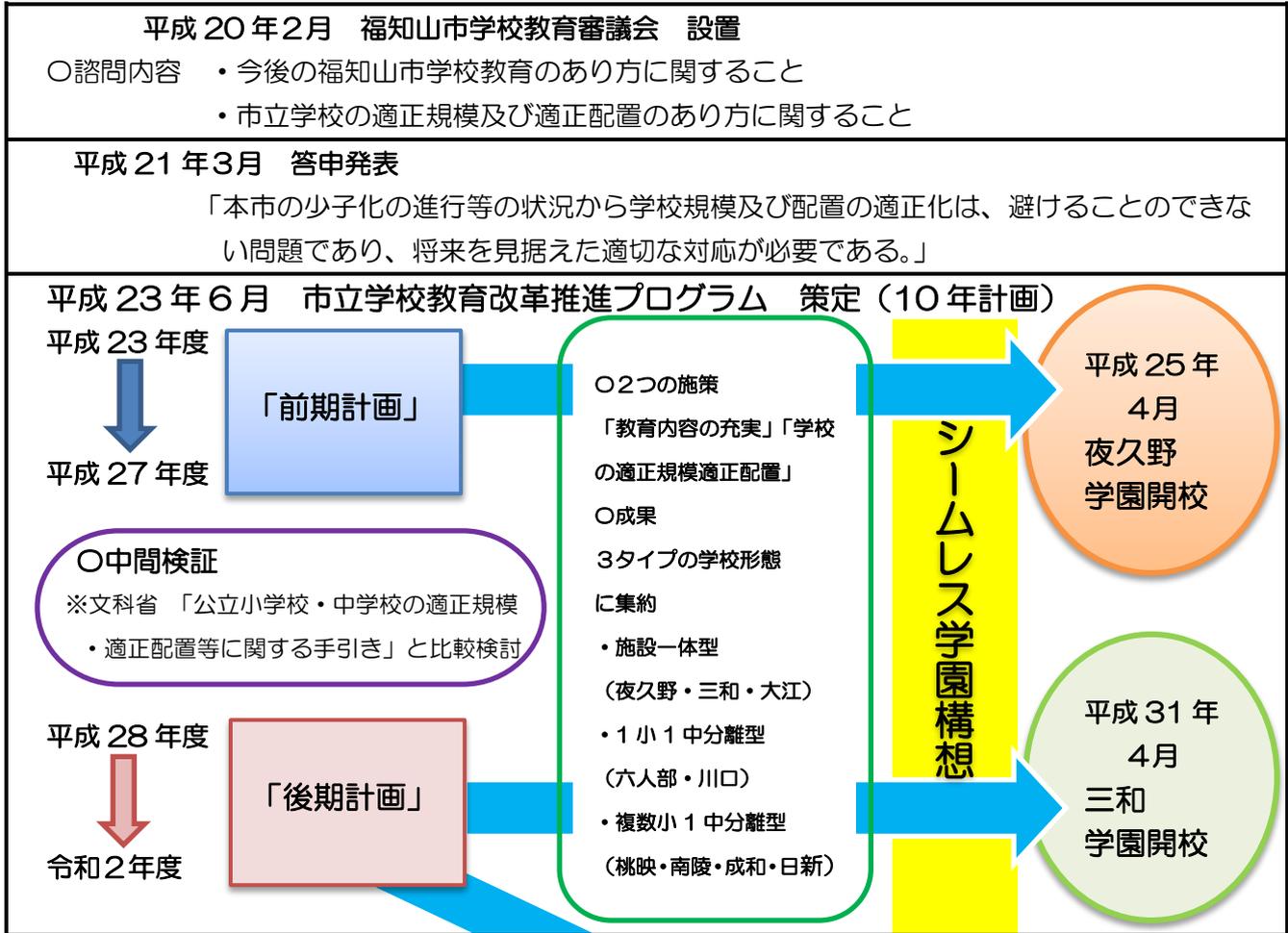
#### 福知山市立学校教育内容充実推進プランの別称『響』プラン・Fについて

本市教育関係者の間で大切に語り継がれる「教育のまち福知山」という言葉は、昭和50年代のはじめ、本市教育委員会が展開した「こだま教育運動」の中で生まれました。この運動は、家庭、地域社会がそれぞれの役割・責任を自覚し、互いに高まり合おうとする心がこだまし合う教育づくりをめざしたもので、まさに共に響き合いながら子どもたちを育てていこうという運動「響育（共育）運動」といえるものでした。今もその精神は生きており、本市の教育目標「自分のために（自己実現）人のために（他者貢献）社会のために（社会貢献）共に幸せを生きる人材の育成」の中にも込められています。

そうした不易の思いを込め、「教育のまち福知山」という風土を生んだ「こだま教育運動（響育運動）」を想起させる『響』の一文字を採用し、ふるさと福知山の教育プランということで「F」を加え、福知山市立学校教育内容充実推進プランの別称を『響』プラン・Fとしました。さらに、「Develop the Ability of Children in Fukuchiyama plan ～教育を尊ぶ気風の中で福知山の子どもの可能性を伸ばす教育～」と意識ではありますが、ふるさと福知山で育つ子どもたち一人一人が自らの可能性をしっかりと伸ばし、新しい時代をたくましく生きていくことを心から願って、この副題を加えています。

「市立学校教育改革推進プログラムから

市立学校教育内容充実推進プラン『響』プラン・Fへ」



「環境整備・基盤整備」(ハード面)の役割おおむね終了  
☆学校再編完了 ☆複式・複複式学級の解消  
全ての子どもたちに一定規模の集団の中での「学び合い」の機会を実現

